

【配布先】 道政記者クラブ

【記者発表時・同時資料配布】 苫小牧市政記者クラブ、環境問題研究会、環境記者会



報道関係者 各位

2026.4.24 11:30 解禁

北海道・ラムサール条約湿地ウトナイ湖の生命線 「美々川」流域開発方針の差し戻しを

国内 3 大環境保全団体である日本野鳥の会、日本自然保護協会、WWF ジャパン
が北海道知事に要望書を提出

■ 奇跡的に残された美々川流域の豊かな自然に開発の危機

(公財)日本野鳥の会、(公財)日本自然保護協会、(公財)世界自然保護基金ジャパン(WWF ジャパン)は連名で、美々川流域での市街化調整区域の規制緩和を行わないよう、強く求める要望書を北海道知事宛てに提出しました。

ラムサール条約*湿地ウトナイ湖に注ぐ美々川とその周辺に残る湿原や河畔林は、道内でも有数の豊かな生態系を保ち、希少鳥類をはじめ多くの渡り鳥が利用する国際的に重要な自然環境です。美々川は北海道の「美々川自然再生事業」が進められているほか、「生物多様性条約国家戦略」を受けた「北海道生物多様性保全計画」および「苫小牧市生物多様性地域戦略」でも、ウトナイ湖と連動し生物多様性の保全を図るべき重要な地域に位置づけられています。

美々川流域を含む美沢地区は、これまで市街化調整区域として開発が制限されてきましたが、北海道が策定する「苫小牧圏都市計画 都市計画域の整備、開発及び保全の方針」の中間見直しに伴い、苫小牧市都市計画審議会に承認された「美沢地区土地利用方針(以下、対象方針)」を受け、大規模な半導体工場進出を契機とした物流倉庫等が建設可能となる規制緩和が進められようとしています。

国・道・市が進めてきた保全事業と矛盾するこの動きに対して、環境保全3団体は、北海道知事宛てに美々川流域での市街化調整区域の規制緩和を行わないよう、対象方針の苫小牧市への差し戻しを強く求める要望書を提出しました。

なお、日本野鳥の会は単独で、対象方針を審議する「北海道都市計画審議会」に対しても同日同様の趣旨の要望書を提出します。

<要望書の主なポイント>

- 美々川流域周辺に生息するタンチョウなど希少鳥類や渡り鳥に深刻な影響を及ぼす恐れがあるため、十分な精査を行うよう対象方針を苫小牧市に差し戻すこと
- パブリックコメントの結果とその対応について、地域の自然環境の重要性から北海道環境審議会等にて複合的かつ慎重な審議を行い、その過程を公開すること
- 奇跡的に残された美々川流域の自然を、道自然環境保全地域もしくは環境緑地保護地区に指定すること
- 開発計画には地域の合意形成を条例等で義務付けること

■美々川は希少種タンチョウにとって極めて貴重な新天地

美々川流域とその周辺の湿地、草原、河畔林などは、タンチョウ、オオワシ、オジロワシなどの希少鳥類やオオハクチョウ、マガンなどの渡り鳥が利用する生物多様性豊かな自然環境です。特に、国の特別天然記念物で、国内希少野生動植物種に指定され保護増殖事業が進められているタンチョウの最も西に位置する生息地であり、将来的には営巣する可能性も十分に考えられます。

また保護増殖事業計画においても感染症回避等のため道東地域からの分散化が進められており、冬期の餌資源が確保できる美々川流域はタンチョウにとって極めて貴重な生息地です。物流倉庫の建設などによる河畔林の消失は、生息環境の悪化につながると強く懸念されます。



美々川を利用するタンチョウ

■美々川について

美々川はウトナイ湖に注ぐ主要河川で、全国的にも珍しい直線化する河川改修がされていない、原始の姿を残した川です。この蛇行流路では、水の流れの速さや深さの違いから、それぞれの環境を好む魚類や水草などの生物が生息・生育することができます。河川周辺にはヨシが広がる湿原や河畔林など多様な植生が存在し、タンチョウをはじめとした様々な野鳥や哺乳類の利用があり、生物多様性が非常に高い場所です。また、原始の河川景観が残る美々川はカヌーで下るエコツアーなどでも利用されています。



全国的にも珍しい原始の姿を残す美々川

■ウトナイ湖について

ウトナイ湖は、1991年に日本政府により「国際的に重要な価値をもつ湿地」としてラムサール条約に登録されています。また国際的な基準による重要野鳥生息地（IBA）にも選定され、東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ（EAAFP）の生息地ネットワークへの参加基準を満たす自然環境が残る貴重な場所です。美々川からウトナイ湖にかけての流域は、勇払原野本来の原生的自然環境が残されており、様々な保護対策がとられていますが、周辺の工業基地計画や新たな土地利用の変化による孤立化など、常に開発と隣り合わせとなっています。



国際的に重要なラムサール条約湿地ウトナイ湖

* ラムサール条約：特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約

■参考資料

・資料 1: 北海道知事宛て「美々川流域(美沢地区)における市街化調整区域の規制緩和と今後の保全のあり方に関する要望書」

<https://www.wbsj.org/nature/opinion/20260424-bibigawa-hokkaido.pdf>



・資料 2: 北海道都市計画審議会宛て「苫小牧圏都市計画区域の整備、開発および保全の方針に対する要望書」

<https://www.wbsj.org/nature/opinion/20260424-hokkaido-city-planning-council.pdf>



・当会 HP「勇払原野を支える美々川の自然環境を守る」

<https://www.wbsj.org/activity/conservation/bibigawa-2026/>



報道関係者様 問い合わせ先： (画像の提供も下記にお問い合わせください)

■公益財団法人日本野鳥の会

ウトナイ湖サンクチュアリネイチャーセンター

担当：松本・和歌月・山口

〒059-1365 北海道苫小牧市植苗 150-3

TEL：0144-58-2505 FAX：0144-58-2521 メール：utonai@wbsj.org

URL：<https://www.wbsj.org/>

■公益財団法人 日本野鳥の会について

1934 年設立の日本最古にして最大の自然保護団体。「野鳥も人も地球のなかま」を合言葉に、野鳥や自然の素晴らしさを伝えながら、自然と人間とが共存する豊かな社会の実現をめざして活動を続けています。

独自の野鳥保護区を設置し、シマフクロウやタンチョウなどの絶滅危惧種の保護活動を行なうほか、野鳥や自然の楽しみ方や知識を普及するイベントや冊子の発行などを行なっています。会員・サポーター数は約 5 万人。野鳥や自然を大切に思う方ならどなたでも会員になれます。

<https://www.wbsj.org/>



■公益財団法人 日本自然保護協会について

自然保護と生物多様性保全を目的に、1951 年に創立された日本で最も歴史のある自然保護団体のひとつ。ダム計画が進められていた尾瀬の自然保護を皮切りに、屋久島や小笠原、白神山地などでも活動を続けて世界自然遺産登録への礎を築き、今でも日本全国で壊れそうな自然を守るための様々な活動を続けています。「自然のちからで、明日をひらく。」という活動メッセージを掲げ、人と自然がともに生き、赤ちゃんから高齢者までが美しく豊かな自然に囲まれ、笑顔で生活できる社会を目指して活動している NGO です。山から海まで、日本全国で自然を調べ、守り、活かす活動を続けています。

<https://www.nacsj.or.jp/>



■公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWF ジャパン)について

WWF は 100 カ国以上で活動している環境保全団体で、1961 年にスイスで設立されました。人と自然が調和して生きられる未来をめざして、サステナブルな社会の実現を推し進めています。急激に失われつつある生物多様性の豊かさの回復と、地球温暖化防止のための脱炭素社会の実現に向けて、希少な野生生物の保全や、持続可能な生産と消費の促進を行なっています。

<https://www.wwf.or.jp/>

WWF® and ©1986 Panda Symbol are owned by WWF. All rights reserved

